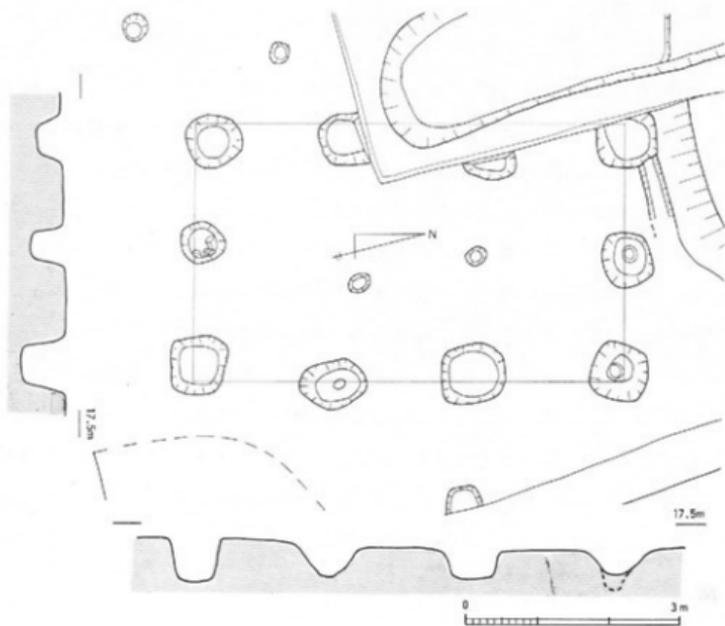


ピット 調査域南部で検出したピットは、多くは直径20～30cmの円形を呈し、深さ10～20cmのものである。埋土内より、須恵器、土師器の細片が出土した。相互における関連はつかめえなかった。

第2遺構面

第1遺構面の調査時に、東部及び西部において、トレンチ調査を行ったおり方形のピット及び溝を検出した。第1遺構面の調査を終えると東部で検出したピットは並びそうであったので、あえて2次遺構面の調査を行った。

建物 3間(6m)×2間(3.6m)の南北棟建物である。柱間は桁行2m、梁行1.8mで、掘方は一辺50～100cm前後の不整形な方形である。柱穴は20cm前後である。掘方の埋土は灰褐色粘質土で、須恵器、土師器等が少量出土している。建物面積は21.6㎡である。

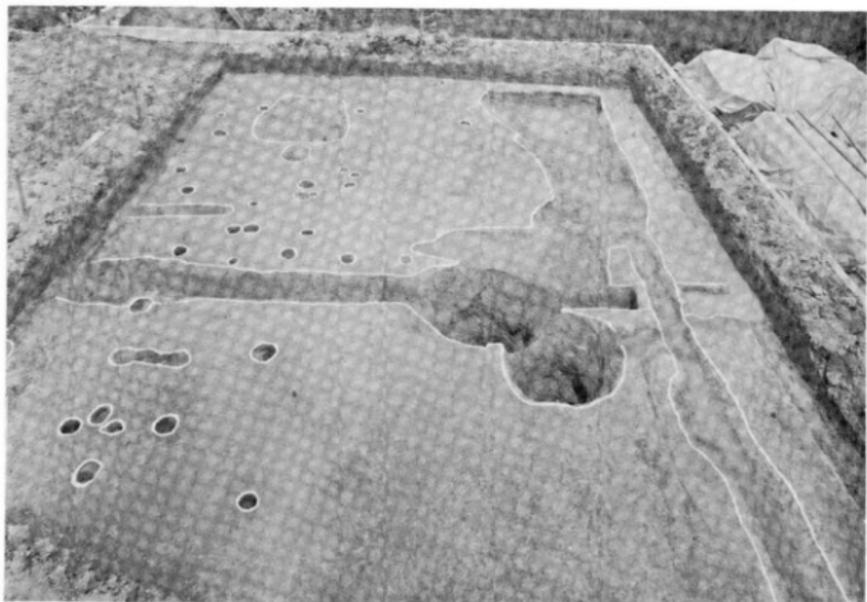


挿図5 遺構実測図

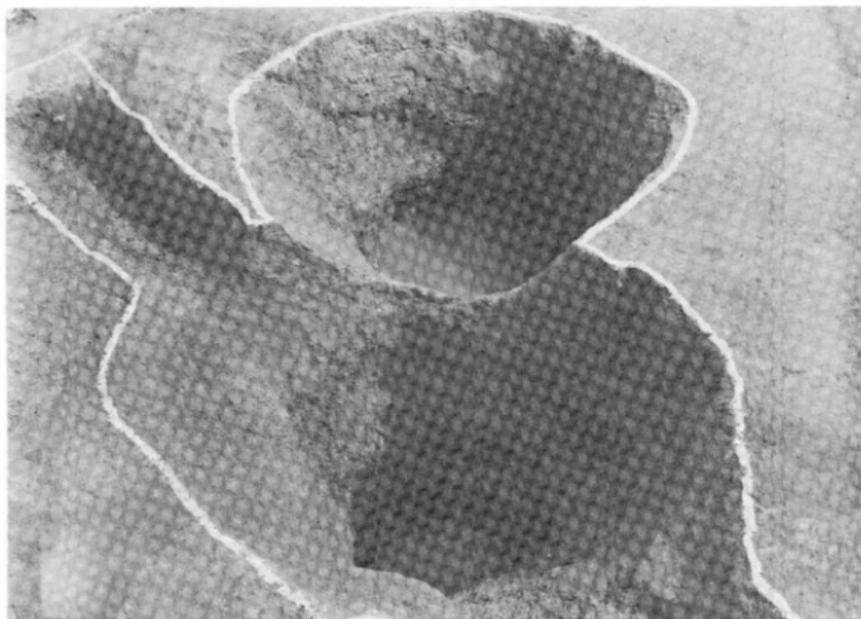




遠景（北より）



全景（西より）



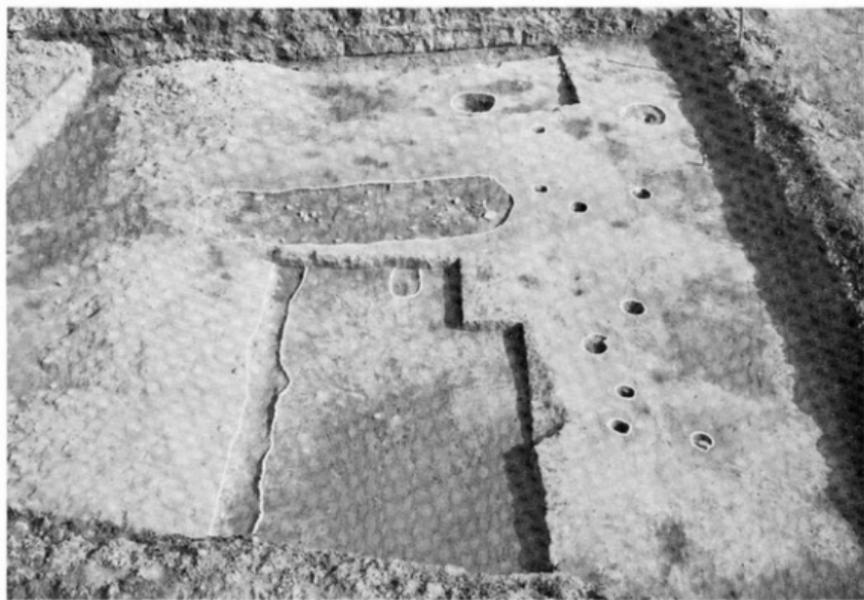
井戸1.2 (北より)



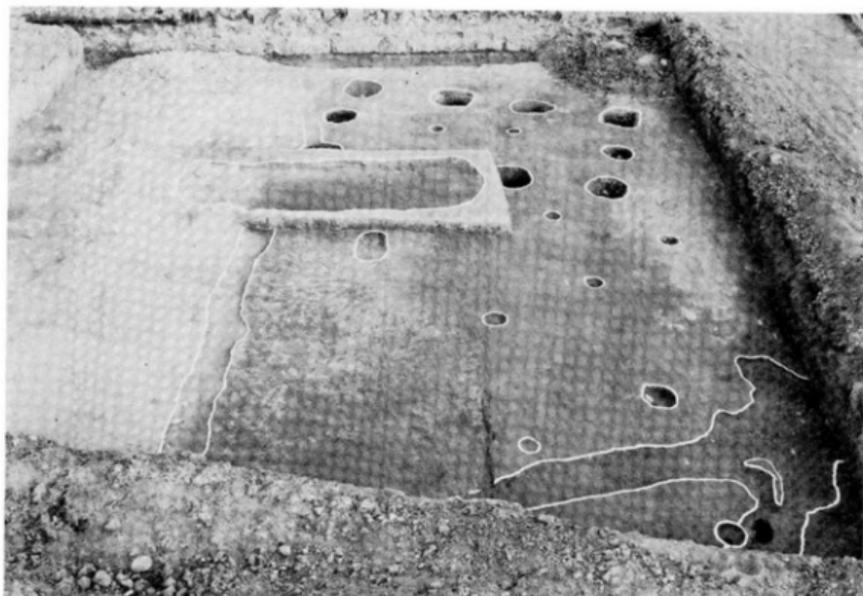
落ち込み2.遺物出土状況



遠景（東より）



全景（第1遺構面、西より）



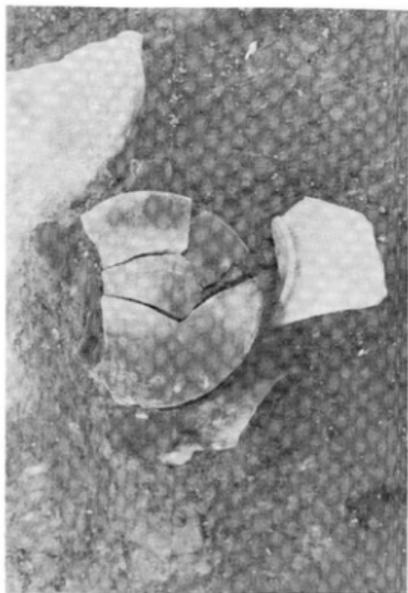
全景（第2遺構面、西より）



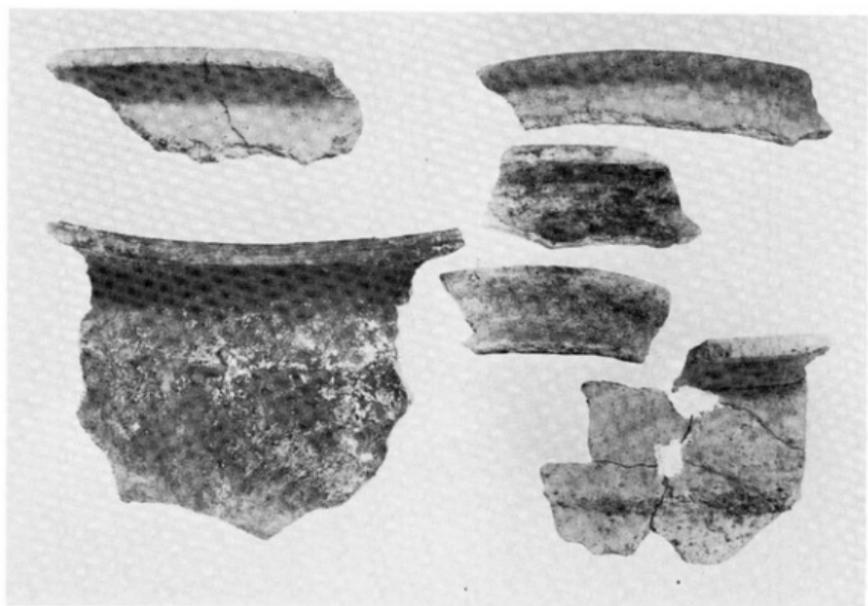
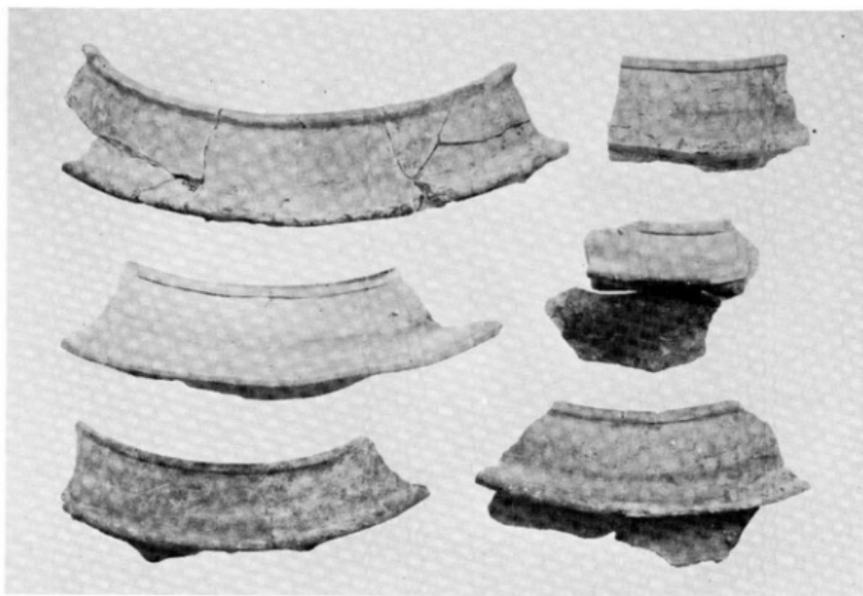
掘立柱建物（南東より）

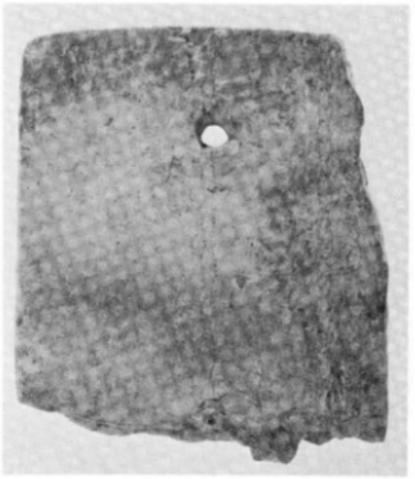
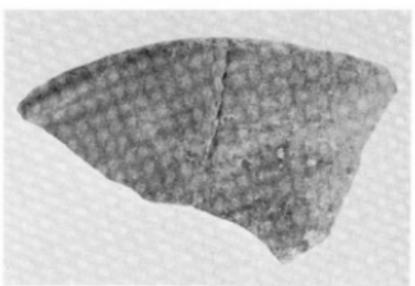
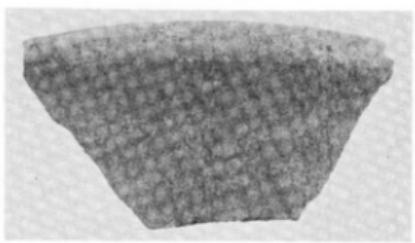
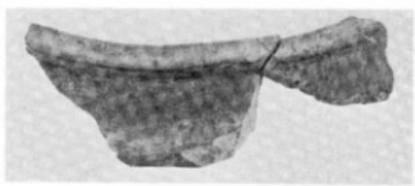
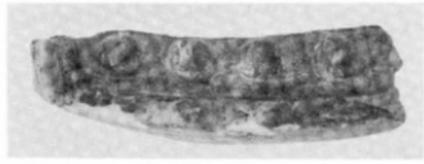
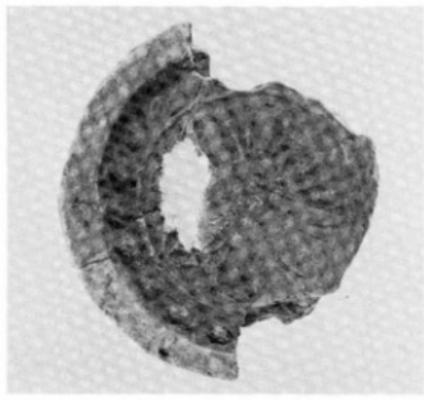
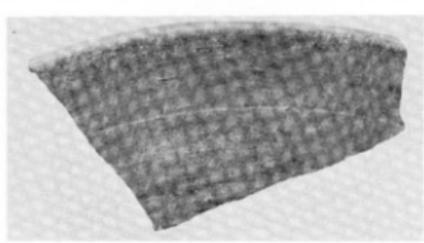
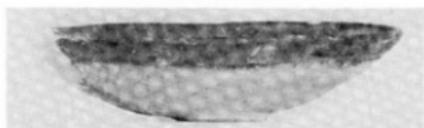
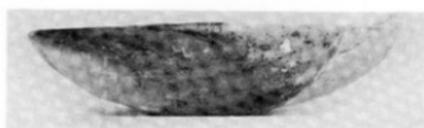


土壇（南より）

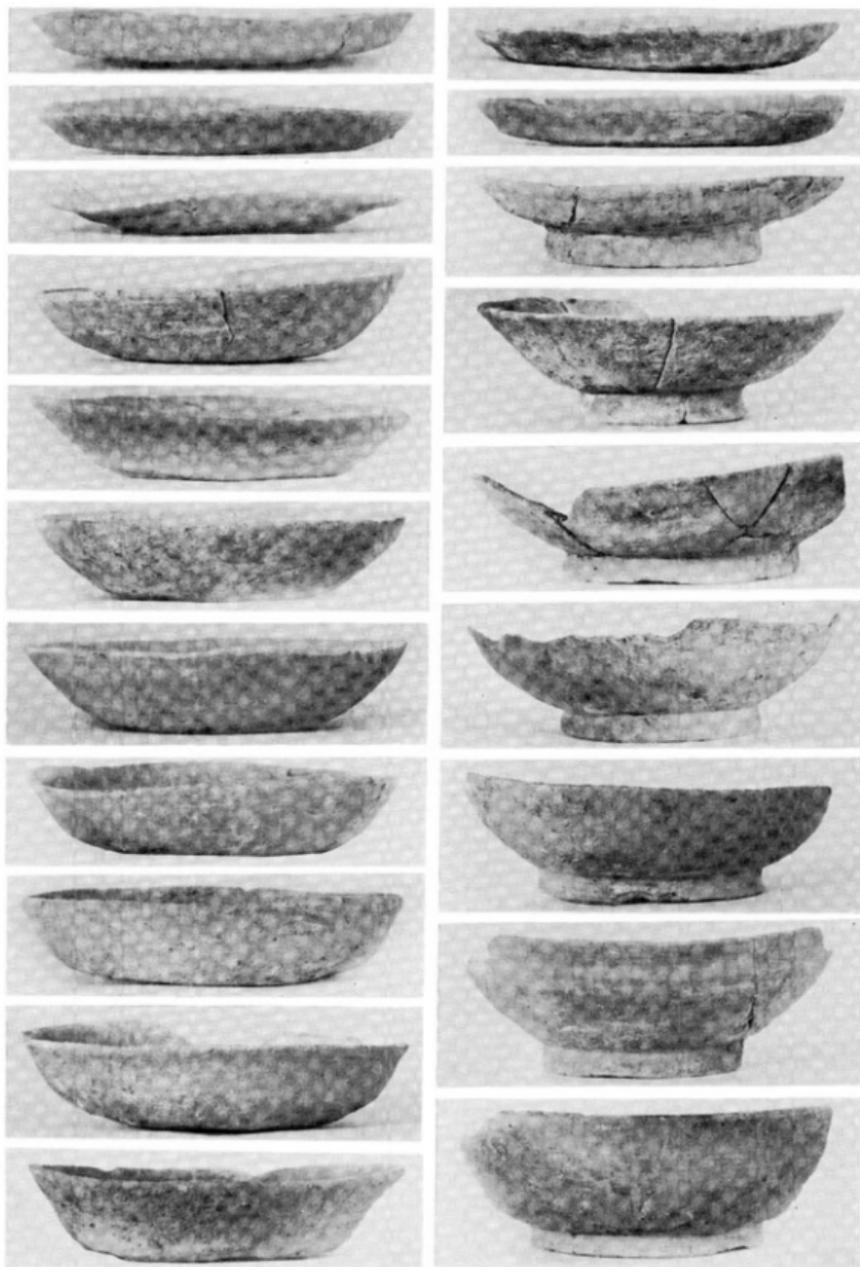


土壇遺物出土状況

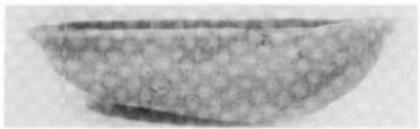
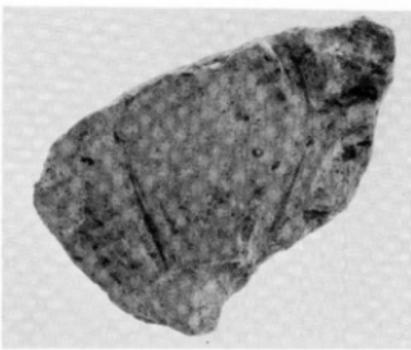
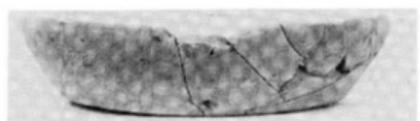
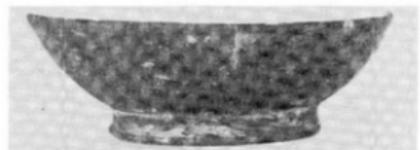
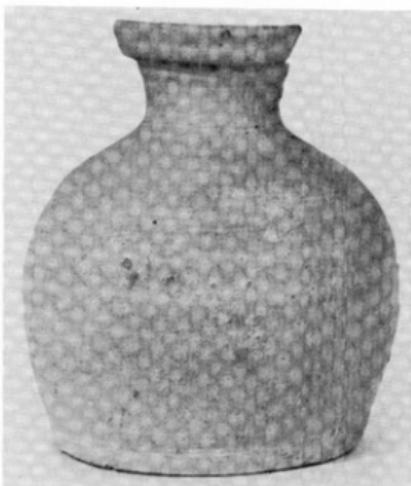
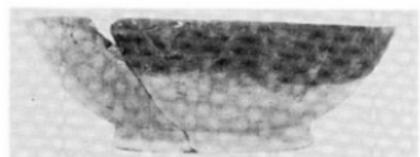
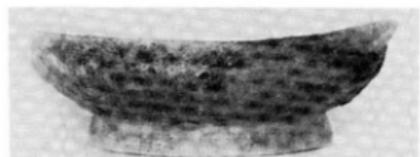
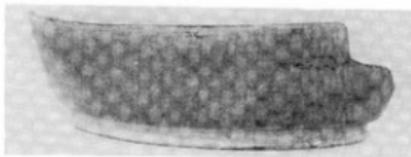
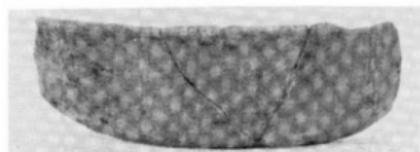
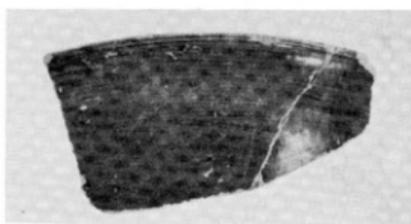


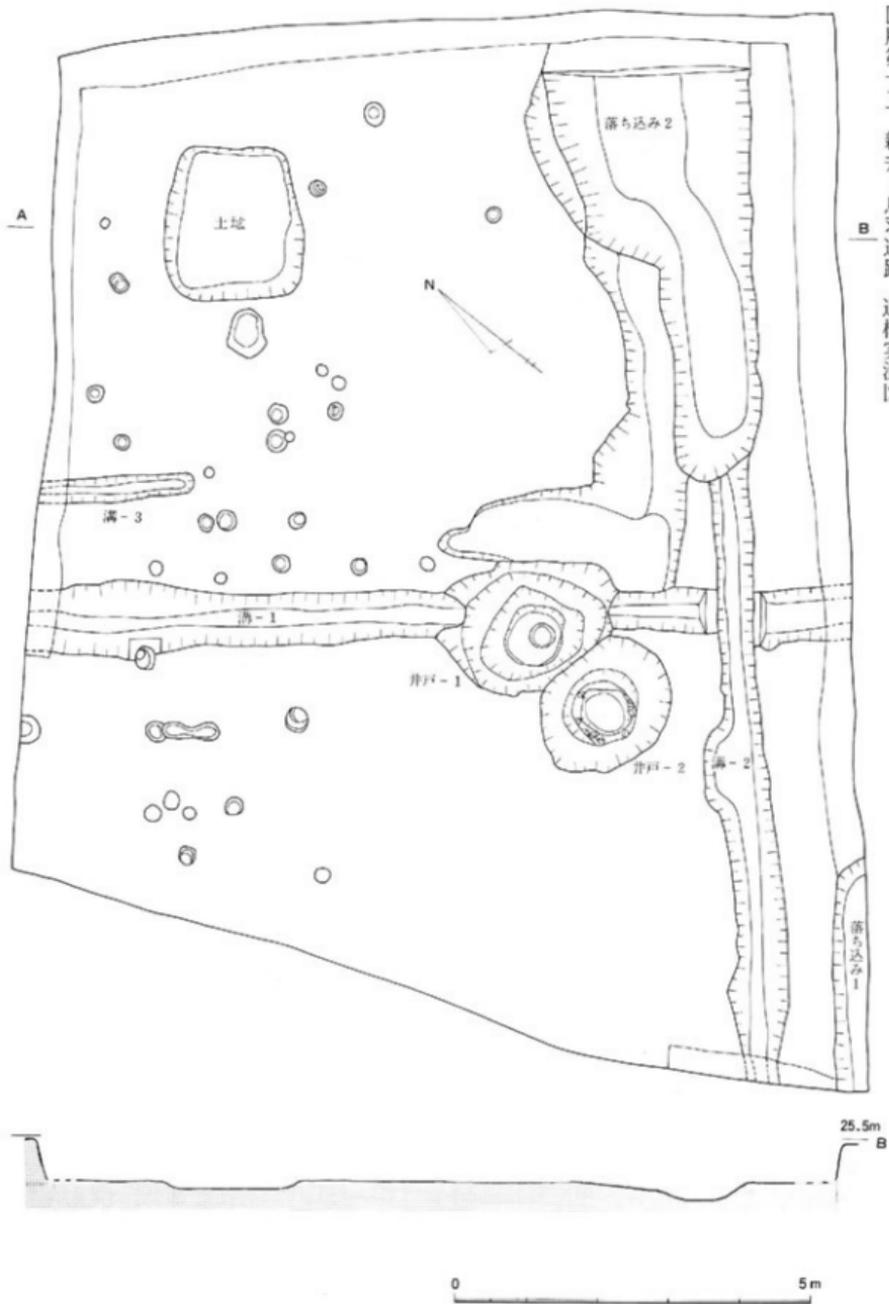


図版第九 加治・神前・畠中遺跡遺物写真



図版第十 加治・神前・畠中遺跡遺物写真





図版第十五 加治・神前・畠中遺跡 遺構実測図(第二遺構面)

